

泉佐野市・ビンディン省友好交流覚書調印式挨拶

(2019 年 10 月 21 日)

グエン・タイン・トゥン ビンディン省党委書記

ホー・コック・ズン ビンディン省人民委員長

千代松（ちよまつ） 泉佐野市長

辻中（つじなか） 泉佐野市議会議長

加藤（かとう） 日越堺友好協会理事長

ご列席の皆様

●泉佐野市・ビンディン省の「友好交流覚書」締結を心からお祝い申し上げますとともに、この日のためにご尽力された双方の関係者の皆様に感謝を申し上げます。

また、先ほど、ズン人民委員長から頂いた、台風 19 号の被害者に対する温かいお見舞いのお言葉、そして、昨日来、我々・泉佐野市一行に対する温かい御配慮に感謝申し上げます。

日本政府を代表し、三点お話しさせていただきます。

●一点目は、日越間の地方間交流に関してです。

現在、日越関係は、政治・安全保障、経済など、全ての分野で日々拡大していますが、地域間交流も例外ではなく、この 5 年間でとみに緊密化しています。

日本大使館が把握している限りでは、日本とベトナムの自治体間で、現在 71 件の交流覚書が締結されていますが、その 3 分の 2 以上は、最近 5 年間に締結されたものです。今回の泉佐野市・ビンディン

省の覚書は、72件目の覚書となりますが、泉佐野市にとっては、ベトナムの地方政府との初めての覚書であり、ビンディン省にとっては、日本の地方公共団体との初の覚書です。

地域間交流の緊密化は、行政間のみならず、間違いなく、住民レベルの交流を通じて相互理解と親近感を深めています。また、最近では、日本語の学習に励んできたベトナムの若者を、国際交流員として任用する日本の自治体も増えています。ぜひ、泉佐野市におかれても、御考慮いただければと思います。

●二点目は、大阪府泉佐野市とビンディン省の対日関係を紹介させていただきます。

泉佐野市は「関西国際空港」を擁しており、日本の空の玄関口の一つです。大阪では、今年6月にG20首脳会議が開催されました。また、2025年には、万国博覧会が開催予定です。

●日本企業のビンディン省へのこれまでの投資件数は18件、約1.6億ドルと、それほど多くはありませんが、進出している日本企業はビンディン省の様々な配慮に感謝しています。そして、多くの日本企業が、ビンディン省に関心を有しているものと思います。

●ビンディン省は、大型船舶が寄港できる国際港湾・クイニョン港を擁しており、ベトナム南中部の物流拠点です。また、マグロ等の海産物にも恵まれおり、日本に輸出されています。最近、FLCグループと連携し、リゾート開発も進んでいます。今年、当地フーカット空港を拠点とする「バンブー航空」が運航を開始し、バンブー航空は日本

との定期便を早期に実現したいとの意向を有しておられます。特に、関空線就航が実現すれば、間違いなく、関西とビンディン省の関係は強化されるものと思います。

●更に、クイニョン大学では、昨年４月に、日本語・日本文化センターが創設され、大使館と国際交流基金との連携も強化されています。レクイドン高校でも日本語教育を展開していただくなど、日本語を話すことができる人材を育成いただいており、これは、日本企業からの投資促進という観点からも、非常に重要です。

引き続き日本政府としては、クイニョン大学及びレクイドン高校との連携を強化したいと考えております。

●三点目は、加藤均・日越堺友好協会理事長に関してです。

加藤理事長は、今年８９歳とされますが、長年にわたり、多方面で日越関係の深化・拡大に貢献されてきました。

特に、ビンディン省との間では、指導者の方々と厚い信頼関係を築かれており、これまでマグロ漁業振興、日本企業の投資誘致、クイニョン大学日本語・日本文化センター開設、サニコン社と協力し、地域の飲料水・下水環境の改善など、数々の実績を挙げてきておられます。

今回の泉佐野市・ビンディン省間の覚書実現、錦鯉センターの開設につきましても、間違いなく加藤理事長の存在が大きいと認識しています。

この場をお借りして、加藤理事長のこれまでの御貢献に感謝したいと思います。（拍手）

●最後に、皆様の御健勝、泉佐野市・ビンディン省の友好関係の進展、日越関係の一層の発展を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（了）